

1 | 1 山田頭義書簡（伊藤博文宛）

（封筒表）

「伊藤参議殿 山田頭義

親展
」

（封筒裏）

「緘」

御清適ニ可被為在敬

賀、扱先日申上置候商

法編纂一條者

至急ニ窪田周布

両人之内江御聞合

被下、何分速ニ御決定

相成候様御高配可被成

下冀望仕候、昨日拝顔

之節可申述と存、失

念候ニ付不取敢申上候、

草々不具、

頓首

二月廿二日

（奥封ウハ書）

「博文賢台 頭義」